令和５年度　島根県立出雲商業高等学校　学校評価（Ｎｏ．１）

教育目標	重点目標等		担当	目標達成のための方策	評価項目	評価値の元データ	R５ 平均	R５ %or数値	R５ 評価	評価	自己評価	改善策	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 コメント
『自立型人間の育成』 ①主体的に考え行動できる生徒 ②こころのコップが上向きで、主体変容できる生徒 ③地域や人を愛し、自己有用感・自己肯定感を抱く生徒	学習の基盤となる資質能力の育成	①基礎・基本の徹底	教務 １年 ２年 ３年 生徒	・主体的に考え、学ぶことのできる生徒の育成	・学力や専門性が高まるよう主体的に学んでいる生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 1	3.2	88	A	A	・生徒、教員とも学力や専門性が高まるよう意識して取り組んでいる様子が伺えるが、教員の評価が若干低い。生徒の「学力」「専門性」をどう評価するのか（アセスメントと指導・支援の在り方、何を以て「学力」「専門性」が高まったと捉えるのか）についての更なる共通理解が必要か。【教務】 ・教科担当と担任など個別での共有は各教員が行っていたが「教科担当者会」などの共有の場を設けて議論する機会が少なかった。その結果、連携不足と感じる教員が多かったように思う。【学年】 ・すべての項目において A 評価であることには一定の成果があったと受け止める。しかし、生徒の自己評価と保護者や教職員の評価の平均に隔たりがあることがわかる。このことから、生徒自身の規範意識の向上が必要であると考えられる。【生徒】 ・「読書習慣を確立する」は概ね高い評価を得ることができた。【図書】	・教員間で新学習指導要領が目指すところや本校グランドデザインが目指す「育てたい生徒像」「育てたい力」について一層共通理解を図る必要がある。【教務】 ・生徒と個人面談の回数増加や担当者会などの共有の場を設けて生徒の実態を知り、生徒が必要としている支援を把握する。【学年】 ・昇降口でのあいさつ運動や月初めの朝読書の時間に頭髪服装検査を生活安全委員が行うことで、生徒同士で規範意識を向上させたいと考える。【生徒】 ・朝読書の取り組みをよりよくするため、図書館に生徒からのリクエスト本を入れ、広報活動に力を入れていく。また、図書委員会と協力し読書活動を推進していく。【図書】		・交通マナーなど生徒の自己評価は高いことに対して教職員の方々の評価は比較的低くなっている。先生方が「こうあって欲しい生徒像」を生徒の皆さんはよく理解していないのではないかあるいは一部の生徒の交通マナーを見て先生方の評価が低くなっているのではないか。この評価の差はなんなのか気になります。
					・生徒の学力向上に向け、適切かつ効果的な指導・支援を行っている割合	教員ｱﾝｹｰﾄ 7	2.9	80	A					
				・教科担当と連携した基礎学力の向上	・教科担当、担任、学年部等と連携した基礎学力の向上	教員ｱﾝｹｰﾄ 8	2.8	75	B					
				・社会人として通用する挨拶マナー・身だしなみ・ふるまいの習慣化	・登校から帰宅までの正しい服装　生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 6	3.8	99	A					
					・登下校時の交通マナー自転車マナー生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 7	3.8	100	A					
					・気持ちの良い挨拶や礼儀正しい言葉遣いができていると考える保護者の割合	保護者ｱﾝｹｰﾄ 13	3.2	90	A					
					・服装・頭髪指導等によって生徒の身だしなみが整っていると考える教員の割合	教員ｱﾝｹｰﾄ 12	2.9	80	A					
					・自転車点検や交通安全街頭指導により交通ルール・マナーが向上していると考える教職員の割合	教員ｱﾝｹｰﾄ 14	2.9	82	A					
			図書	・読書習慣を確立する。	・朝読書にしっかり取り組んでいる生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 19	3.1	74	B					
					・書籍等の充実が図られ、読書指導の推進がなされていると感じる教職員の割合	教員ｱﾝｹｰﾄ 22	3.1	90	A					
		②自己有用感・肯定感の醸成	全	・全ての活動により自己有用感の醸成を図る。	・学校の活動を通して人に役立っていると感じている生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 32	3.4	95	A	A	・出商デパートをはじめとする様々な行事での体験や部活動等において自己肯定感や自己有用感が育まれていると考える。	・他者の役に立つといった自己有用感に裏付けられた自己肯定感が育まれるよう場面設定をしていきたい。		
				・全ての活動により自己肯定感の醸成を図る	・学校生活で自分の長所を伸ばす・増やすことができたと感じる生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 30	3.3	92	A					
		③確かな人権感覚の涵養	人権教育	・人権意識を高揚させ、心身ともに健康で文化的な学校生活が送れるようにする。	・人権に配慮した言動をしている生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 24	3.6	99	A	A	・生徒による評価はかなり高く、目標を達成したと思われる。 保護者からの評価がやや低いことが課題である。	・来年度も引き続き人権に配慮した取り組みを進めたい。 HP 等をとおして保護者への情報発信にも取り組みたい。		
					・学校生活の中で自分の人権が守られていると感じる生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 25	3.5	96	A					
					・本校が人権を尊重する心と態度を身に着ける人権教育を推進していると考える保護者の割合	保護者ｱﾝｹｰﾄ 11	3.0	85	A					
		④人格形成の場としての生徒会活動・部活動の推進	生徒	・生徒会活動を見直し、活性化させる。	・生徒会・各種委員会が積極的・意欲的に活動していると感じる生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 17	3.2	88	A	A	・コロナが５類になったことで、生徒会行事がコロナ前のフルサイズに戻った。これにより、学園祭の生徒会企画など、生徒のやりたいことを十分に叶えてやることができたと考える。	・未来チャレンジや探究活動など、学校の枠を超える活動も増えており、部活動だけが課外活動ではなくなってきている。これらの活動に学校としてどのように支援できるか検討したい。		
					・生徒会・各種委員会が主体的に学園祭等の行事に取り組むための指導・支援が行われていると感じる教員の割合	教員ｱﾝｹｰﾄ 13	3.2	97	A					
				・部活動への積極的な参加を促し活性化させる。	・部活動に積極的に参加・活動できる環境作りをしていると考える保護者の割合	保護者ｱﾝｹｰﾄ 10	3.0	83	A					
					・部活動に積極的に行っていると考える生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 16	3.6	93	A					
	身につけさせたい資質・能力の育成	①主体的・協働的・創造的な探究学習の推進	教務 商業 魅力	・主体的、対話的で深い学びの実現を目指し、研究に努める ・地域の特徴を理解させ、探究活動を通じて問題解決能力を育成する。 ・各学年において目標を定め、３年間を通じた育成を図る。	・主体的、対話的で深い学びを意識した授業を展開した教員の割合	教員ｱﾝｹｰﾄ 40	2.7	66	B	B	・教員の思い描く「主体的・対話的で深い学び」の到達点が高いが故の自己評価の低さか。【教務】 ・探究学習αは系統だった授業展開ができたが、βは今年度は手探りでの展開となってしまい年間を通じての共通理解を図った展開が不十分であった。【魅力化】 ・課題研究では個人の関心あるテーマに対して主体的に研究に取り組む姿が見られた。【商業】	・校内外での研修や授業互見他の機会を増やし、「主体的、対話的で深い学び」について相互に学ぶ。【教務】 ・探究の次年度の計画を今年度中に具体的なものとし、４月から年度末を見通して展開できるようにする。【魅力化】 ・計画の遅れや未達成を防ぐために中長期的な視野を持って計画を立てられるように支援をする。【商業】		・探究学習等では、幅広い大人とふれあう機会を多く持つとよいのではないか。 ・クロームブックの先生方の活用の数値が低くなっている。新しいものが取り入れられることは良いことだが、年齢層の比較的高い先生方にはご苦労だなと感じる。
					・１年生：「α」の授業で、探究的な学びの基礎が身についたと感じる生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 27	3.3	92	A					
					・2 年生：「β」を通じて問題解決の取り組みに達成感を感じている生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 28	2.8	72	B					
					・「課題研究」の授業において課題解決型の学びや探究的な学びにより自己の成長を感じている生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 29	3.2	88	A					
		②学習内容と指導の充実	教務 １年 ２年 図書	・日々の授業の教材研究を充実させる	・教材研究に積極的に取り組んでいる教員の割合	教員ｱﾝｹｰﾄ 5	3.1	90	A	B	・授業に関しての満足度は高い様子が伺える。【教務】 ・教員の多くが PC を用いて授業にしており、教材の配布や課題提出、意見の集約や協働学習など、授業づくりに工夫がみられる。生徒のクロームブックを活用する場面もだんだんと増えているが、教員間での差が感じられる。【学年】 ・学習活動に図書館を利用できる生徒が少し少なかった。【図書】	・引き続き研修に努め、内外での授業研究、授業公開の実施等。【教務】 ・ICT 活用について実践していることなどを教員間で情報共有し、示範したり助言したりすることで、活用事例の幅を広げていくことが必要。【学年】 ・探究学習の活動などで、図書館の活用方法をより分かりやすく伝えていく。また、学習活動のみならず、学校生活でも図書館を利用できるよう工夫していく。【図書】		
					・先生は授業内容が理解しやすいよう、教材等工夫をしていると感じている生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 2	3.1	92	A					
				・クロームブック等 ICT 機器を活用し、生徒の学びを深める	・ICT 機器等を活用する等、学習内容に興味関心が持てる工夫した指導が行われていると感じる生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 3	3.0	86	A					
					・クロームブックを積極的に活用した授業を実施している教員の割合	教員ｱﾝｹｰﾄ 28	2.6	61	C					
				・図書資料、新聞、データベース等を活用するなど、図書館を活用し、生徒の学びを深める。	・図書・情報教育推進のための働きかけが見えたと回答した教職員の割合	教員ｱﾝｹｰﾄ 23	3.3	100	A					
					・自分の学習活動に図書館、図書資料、新聞等を利用することができる生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 20	2.7	61	C					
		④専門性の深化	商業	・検定合格率を向上させる。	・商業科：3 年次 2 月初旬までに 1 級 3 種目以上取得者数が学科の 40%以上　日商簿記検定 2 級取得者 15 名以上。	校内統計	—	—	C	B	・商業科：3 種目 14%　日簿 2 級 7 名 ・情報処理科：3 種目 42%　基本 7 名	・商業科については資格取得の意識を上げられるよう機会をと		

				・一つ上を目指す資格取得に挑戦させる。 ・出商デパートの開催。	・情報処理科：3年次２月初旬までに１級３種目以上取得者学科の 40%以上　基本情報取得５名　ITﾊﾟｽ・ｾｷｭﾘﾃｨ取得 10 名応用技術１名以上。	校内統計	―	―	A		Ｉﾊﾟｽ11 名　応用１名 ・情報処理科については学年が上がるにつれ、主体的に取り組む姿勢が育まれた。 ・企業と協力して活動でき、イベントにも数回参加することで地域に貢献できた。	らえての全体指導と個別指導を充実させる。 早い時期から高度資格を意識させ、CBT 受験など受験機会を充実させる。		
					・出商デパートに関する活動を有意義なものにできたという生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 33	3.5	96	A					
	学びを支える安心安全な環境	①安全意識の高揚	総務 生徒	・防災教育、避難訓練の実施（年３回） ・街頭指導（交通安全運動週間） ・自転車点検（年１回） ・安全に関わる情報の周知徹底 ・出雲警察署との連絡・協力	・災害発生時に適切に行動し、安全に避難することができる生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 8	3.7	99	A	A	・年３回(学期に１回)の訓練を行った。それぞれの学期に目的をもって実施することができたと考えている。【総務】 ・生徒評価は高く出ているが、街頭指導をしていると、危険な運転をしている者も一定数確認できるため、継続していく必要がある。【生徒】	・今後も訓練を行い生徒の避難の訓練と教職員による避難誘導の訓練を積み，安全に避難できるようにしたい。また，島根原発３０キロ圏内に立地している学校として，原子力防災訓練の導入も検討したい。【総務】 ・今後も、警察署や生徒指導協議会と連携して、安全意識の高揚に努める。【生徒】		・能登半島において地震があった。教員生徒とも良い数値が出ていてよいと思う。生徒が家にいるときに災害が起きた時の連絡手段を確立するとよいのではないか。
					・防災避難訓練が生徒や教職員の危機管理意識向上につながっていると考える教職員の割合	教員ｱﾝｹｰﾄ 4	3.1	87	A					
					・交通ルール及び自転車のマナーを守り、事故防止に努めている生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 7	3.8	100	A					
		②生徒理解に基づく組織的な対応	教務 生徒 保健	・教育相談を充実させ、課題を抱える生徒の早期発見と適切な対応を行う。 ・個別の生徒の状況を把握し，必要な支援を協議して，共通理解のもとで支援を行う。	・保護者や先生、友人に悩みを相談したり、スクールカウンセラーに話を聞いてもらったりして、悩みごとに適切に対応している生徒の割合。	生徒ｱﾝｹｰﾄ 26	3.3	89	A	A	・生徒の悩みはおおむね周囲に相談されてはいるが、悩みに対応できていない１割の生徒へのアプローチが必要であり、課題を抱える生徒には面談等を繰り返し、場合によっては外部へつなげる動きが必要であった。 ・保護者には SC、教育相談等の窓口を今以上に周知していく必要がある。	・気になる生徒については、声がけや定期的な面談等を実施することで悩みごとや困りごとを一緒に考えていく機会を設定する。 ・インクルーシブ教育拠点校や SC 等関係機関との連携を密にするとともに、保護者に関係機関の情報を発信していく。		
					・生徒は悩みを誰かに相談できていると感じている保護者の割合。	保護者ｱﾝｹｰﾄ 7	3.0	93	A					
					・気になる生徒への支援を関係者と協力して行っていると考える教員の割合。	教員ｱﾝｹｰﾄ 25	3.0	90	A					
『自立型人間の育成』　①主体的に考え行動できる生徒 ②こころのコップが上向きで、主体変容できる生徒 ③地域や人を愛し、自己有用感・自己肯定感を抱く生徒	進路実現に向けた支援	①明確な進路目標の決定	進路	・年間行事予定に沿って企業説明会・進路ガイダンスを実施する。また、希望者対象ガイダンス等を実施する。	・第２回進路希望調査による進路希望未決定者の割合（１年生：20%未満　２年生：10%未満）	校内統計	1 年 2 年	24 6	B A	A	・２年生は昨年度に引き続き、１学期末と 2 学期末に進路連絡会を行い、担任の先生方と連携して未定者の支援に努めたことが、未定者 6%という結果につながったのではと考える。1 年生については、2 月の「島根県立大学浜田キャンパス訪問」や、3 月の「企業・公務員セミナー」を通して、今後進路について検討していく生徒が増えていくことが見込まれる。	・1 年学年部と連携し、LHR 等で進路について取り上げてもらう機会を増やす。		・２年生において進路希望未定者がこれほど少ないのは進路ガイダンス等の行事や普段の先生方の生徒への関わり方が良いのであろう。
		②望ましい職業観の育成と学年段階に即したキャリア計画の実施	進路	・進路集会、ＬＨＲ等で計画的・継続的な進路指導の実施 ・教職員全員での小論文指導、面接指導の実施	・進路に関する計画的・継続的な指導が行われていると感じる生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 11	3.5	98	A	A	・進路集会については、進路別集会なども含め、計画的かつ効果的に行うことができたが、LHR については、各担任の先生方の裁量に任せていた。また、教職員全員での指導については、7 月には担当者を提示し、早期の対応をお願いすることができた。	・各クラスの LHR での進路指導を行いやすいよう、ワークシートを提示するなど工夫する。		
					・入学・採用試験に向けて小論文・面接指導を適切に実施していると感じている教員の割合	教員ｱﾝｹｰﾄ 19	3.3	97	A					
					・個に応じて適切な進路指導が実施されていると感じる保護者の割合	保護者ｱﾝｹｰﾄ 9	3.0	81	A					
		③進路情報の提供と活用	進路	・情報冊子（面接、小論文等）の選定・購入・利用を薦める。進路通信等を活用し、生徒・保護者に求められている情報を迅速に提供する。	・進路決定に必要な情報が提供され、自己の進路について深く考えるようになった生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 12 生徒ｱﾝｹｰﾄ 13	3.4 3.1	93 91	A A	A	・生徒については、「進路決定に必要な情報が提供されている」と考える割合が多いが、保護者についてはやや割合が低く、保護者までは十分に届いていないという点が課題である。	・これまで通り、進路行事を迅速にホームページへアップすることに加え、保護者が欲しい進路情報は何か、担任の先生方を通して聴き取り、できる限り対応する。		
					・適切な進路情報が提供されていると感じている保護者の割合	保護者ｱﾝｹｰﾄ 8	2.9	77	B					
	学校と地域との協働	①魅力化コンソーシアムと学校運営	魅力	・地域の方や外部指導者と連携をした授業展開をコーディネートする。 ・身の回りの課題に気づき、課題解決をしようとする生徒を育成する。	・「地域の課題解決法について考える」認識 70%	魅力化ｱﾝｹｰﾄ		44	D	B	・探究学習においては地域課題につ いてのテーマを特に設定しなかったので生徒自身が十分に課題を考える場面があまりなかった。	・探究テーマの設定において地域を関連付けたものを考え、地域の方とのコーディネートを推進する。		・オープンスクールに多数の中学生が参加していることは、如何に出雲商業が魅力を持っているかがわかる良い数値である。
					・地域の魅力や資源、課題について考えることがあった生徒の割合	生徒ｱﾝｹｰﾄ 31	3.1	84	A					
		②小中学校との連携	総務	・オープンスクールを開催し、本校の魅力を体感してもらう。	・オープンスクール参加者が募集定員の２倍を上回るようＰＲする。	校内統計	―	384	A	A	・参加人数だけでなく事後アンケートで「参考になった」との回答が約 95%を超えた。内容を含め，本校の魅力が発信できたと考えている。	・今後とも，ＷＥＢを利用しての情報発信につとめる。また，本校が行っている様々な校外活動を通じて本校の魅力をアピールしていきたい。		
	次年度へ向けての準備	①新しい学習基盤づくり	教務 特活委 魅力	・３観点別評価や中間試験の実施について、各教科及び学校全体で議論を深め、本校が掲げる人材の育成するための体制を確立する。 ・特別活動の評価のあり方について議論を深め、評価体制を構築する。 ・「総合的な探究の時間」の実施計画と体制を構築する。	・教科会、教科主任会を通じて十分な情報提供や議論がされていると考える教員の割合	教員ｱﾝｹｰﾄ 36	2.9	75	B	C	・学科・教科主任会を 21 回開催（～２月）し、教育課程・評価の在り方等ついて協議。会を通して情報や意見の共有・調整を行え、互いに校内の様々な状況や声を知る機会となった。会の目的・性質上拾いにくい声は、学年会・担当分掌等にも意見を求めた。体制確立という点ではこうした連携が不十分だったか。【教務】 ・特別活動評価チームを立ち上げて、この２年間、「誰が」「何の活動を」「どのように評価するか」を検討し、評価体制は概ね整ったと考える。【特活委】 ・特に探究βは今年度は手探りでのスタートとなり場当たり的な展開となってしまった。ほぼ全教員に関わっていただいたが、共通理解を図った展開が不十分であった。【魅力化】	・定期的な会(場)は引き続き必要。学科・教科主任会の目的等を再度確認しつつ、内容と必要に応じ、該当の分掌・学年会・委員会等からのご意見を運営委員会等の場であげていただく等の働きかけも続ける。【教務】 ・評価チームを来年度以降継続し、評価体制の点検・評価をしていく。【特活委】 ・探究の次年度の計画を今年度中に具体的なものとし、４月から年度末を見通して展開できるようにする。また、担当者の人数を絞り打ち合わせを定期的に行い、共通理解を図る。【魅力化】		・個々の項目は他の箇所と比較して低くなっている。しっかり振り返りをして来年度は良い取り組みとしていただきたい。
					・特別活動の評価のあり方について、議論がされて実施していると考える教員の割合。	教員ｱﾝｹｰﾄ 38	3.1	79	B					
					・１・２年生「α」「β」が共通理解のもと実施されていると感じる教員の割合。 （「α」「β」は探究的な学びの時間）	教員ｱﾝｹｰﾄ 39	2.0	34	D					

※「平均」欄は、評価（あてはまる＝４　ある程度あてはまる＝３　あまりあてはまらない＝２　あてはまらない＝１）を平均したもの
※「評価」欄の基準は肯定的評価の%：Ａ＝８０%以上　Ｂ＝６５～７９%　Ｃ＝５０～６４%　Ｄ＝５０%未満